

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC).
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter_vol48.pdf

Vol. 48 2014. 5. 23

信州大学国際交流センター ニュースレター
Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

発行：信州大学国際交流センター(SUIC)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事
- * 信大NOW No. 86
- * スタッフ近況報告 佐藤 友則 先生（国際交流センター副センター長）
- * 生活ちょっとコラム

■ □
□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！いかがお過ごしですか？

今年度になって、初めてのニュースレターです！3月に卒業・修了した皆さんは新しい生活にはもう慣れましたか？

前回（3月）はまだ雪の話題をお届けしましたが、いまはもう信州大学も清々しい新緑に包まれて、休み時間になると大勢のフレッシュな学生たちがキャンパスにあふれだします。そんな様子を窓から眺め、ほんとうにいい季節になったなあ実感している今日このごろです。

それでは、今日も元気にニュースをお伝えしていきます！

■ □
□ 最近の出来事

★平成26年度 信州大学入学式が行われました

信州大学入学式が4月4日（金）に松本市総合体育館で行われ、全8学部の新入生と編入学生、合計2,181人が入学しました。

山沢清人学長は告辞で「広い教養と深い哲学的思考を大切にし、信頼され、敬愛される真のリーダーとなる準備を、この信州大学で、していきましょう。」とあいさつし、新入生を代表して、工学部電気電子工学科の小山翔留(かける)さんは「現代の課題に対処し、社会に貢献できる人材となれるよう、向上心を持ち、人と人とのつながりを大切にし、専門的な研究に取り組みたい」と決意を述べました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2014/04/26-3.html>

★平成26年度留学生ガイダンスを実施しました

新年度を迎え、国際交流センターでは、4月2日（水）に、海外から信州大学に入学

した学部生、大学院生、交換留学生、短期プログラム生の50数名を対象にガイダンスを実施しました。

韓国、中国、モンゴル、ベトナム、タイ、マレーシア、フィリピン、ネパール、ハンガリー、オランダ、オーストラリアなどから来た留学生は、それぞれが、期待と不安を胸に、本学での新たな留学生生活をスタートさせました。ガイダンスでは、国際教育交流担当理事から信州大学への歓迎のあいさつ、国際交流副センター長からは大学の紹介と日本語教育について、また、総合健康安全センター長からは健康管理と相談についての案内がありました。

留学生のみなさんには、日本語やそれぞれの専門分野を勉強することはもちろん、多くの日本人と交流して、充実したキャンパスライフをおくってほしいと思います。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/aboutus/26-7.html>

★国際交流センター長に 田中 清先生が就任されました

前回のニュースレターでお知らせしたとおり、信州大学国際交流センター長を務められた赤羽先生が2014年3月で定年退職され、この4月から、工学部教授の田中 清先生が新しい国際交流センター長に就任されました。（「ナレースワン大学と学術交流協定を締結」の記事で、右の写真の一番右側に写っているのが田中先生です。）

田中先生は進化計算を専門とされ、先生の研究室には多くの留学生も在籍しています。就任以来、長野キャンパスと松本キャンパスを往復するお忙しい毎日ですが、次回のニュースレターで、先生ご本人からご挨拶いただく予定です。

★ブラジル・パラナ州から、連邦議員、大学関係者ら約20名が信州大学を表敬訪問

4月11日（金）午前、ブラジル南部パラナ州の行政や大学、企業関係者ら約20名がパラナ日伯商工会議所の仲介もあり、信州大学松本キャンパスを訪問しました。本学とパラマ州の産学官の国際連携の可能性を探り、本学附属病院を視察する事が目的です。

本学とブラジル・パラナ連邦工科大学との間では、大学間学術交流協定を本年3月に締結したばかりであり、先方からはFabio Kurt Schneider教授（学部長）が大学側の代表者として説明を行いました。

信大からは赤羽貞幸理事・副学長、三浦義正理事・副学長、田中清教授（国際交流センター長）、本郷一博理事・副学長（医学部附属病院長）など約20名が参加しました。赤羽理事は「これを機会にブラジル・パラナ州との交流が一層促進され、更なる大学間の協定、留学生の交換、研究者の交流などが促進することを期待している」と述べました。パラナ日伯商議所の大城義明会頭は「ブラジルと日本との交流は歴史が深い。是非大学間や病院間、産学間で密接な関係を構築していきたい。」と述べ、双方の期待の高さを感じられました。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓

<http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/2014/05/20-14.html>

★ナレースワン大学（タイ）と学術交流協定を締結

4月14日、ナレースワン大学(Naresuan University)と信州大学との大学間学術交流協定が締結されました。

ナレスワン大学はバンコクとチェンマイの間にあるピサヌローク市にあり、1967年に設立された教員養成のカレッジを起源として1990年にナレスワン大学と称される国立総合大学となりました。現在では、教育、法学、工学、医学、歯学、薬学などの16学部と5カレッジから構成され、学生数は約3万人です。

2012年にナレスワン大学の特別顧問、元外務大臣のDr. Krasae Chanawongseが本学工学部を訪問されたことを契機に交流が開始され、信州大学からは田中 清国際交流センター長や複数の研究者がナレスワン大学を訪問し、研究交流についての議論が交わされ、今回の協定締結の合意に至ったものです。すでにエネルギーマネジメントに関する国際共同研究の合意がなされ、本年10月からはナレスワン大学のリサーチアシスタントを国費外国人留学生として受け入れることが文部科学省により決定されています。

この協定により、今後の活発な研究交流や学生交流が期待されます。

詳しくはこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/aboutus/post-242.html>

★松本留学生応援ファミリーの会による、歓迎イベントが行われました

4月26日、留学生を支援する「松本留学生応援ファミリーの会」による、毎年恒例の市内探訪バスツアーと歓迎会が行われました。松本に住んでいた留学生のみなさんは、参加したことがある方も多いのではないのでしょうか。

バスツアーでは、毎年留学生に好評の石井味噌工場と、今回初めてとなる松本民芸館を訪れました。その後行われた歓迎会には、信州大学をはじめ、他校の留学生や一般市民を含め100名あまりが参加し、自己紹介をしたり自国の文化などについて話し、交流を深めました。

写真はこちら

↓ ↓ ↓
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/photo/vol48_bustour_2014.jpg

■ □

□ 信大NOW No. 86のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 86>

- 世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献する
アクア・イノベーション拠点キックオフ・シンポジウム
- 信州大学×日本ケーブルテレビ連盟信越支部長野県協議会
我らがふるさと
信州の火祭りフォーラム
- 地（知）の拠点（COC）整備事業海外事例調査
信州大学の地域貢献・地域連携
University Engagementの先進地域を見る！
- 信州大学の研究成果、一挙公開！
第1回信州大学見本市
知の森総合展2014

○TOPICS

日本科学未来館でCOI全拠点によるキックオフシンポジウム開催！
医学部と松川村が地域保健推進に向けて連携協定を締結
信州の夢を載せて・・・世界初LED可視光通信実験衛星「ぎんれい」打ち上げ成功

○信大キャンパスの「樹」シリーズ⑰

ハリギリ 南箕輪キャンパス

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開
されていますので、ぜひご覧ください。↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>



□ スタッフ近況報告 佐藤 友則 先生（国際交流センター副センター長）

みなさん。かなりお久しぶりです。佐藤友則です。

3月おわりから今までの短い間に、とても大きな変化がありました。赤羽先生が3月末に定年で退職されたのです。2007年6月から約7年間、2009年からは国際交流センター長として、センターを非常にしっかりした、信頼できる組織に作りあげてこられた赤羽先生が、もういません。実は先日、5月7日に他のスタッフと一緒に先生の自宅の遊びに行ってきましたが、定年後の「ゆとりのある生活」を実践しておられました。ジーンズ姿で次々とご自慢のワインをあける先生を見ながら、「私にも定年後にあんな豊かな生活があるのだろうか？なさそうだなー」と思いながらも、すてきな時間を過ごしました。

赤羽先生と入れかわりに、光山（みつやま）先生というアメリカでバリバリ仕事をしてきた経営を専門とする先生がセンターに入りました。これから世界中で活躍してくれることでしょう。みなさんのうち、海外にいる同窓生はこれから顔を見る機会がふえます。

さて、話はかわって「日本」の話です。海外に住んでいる人は「日本はこれからどうなっていくのだろうか？戦争をする国になるのか？」と不安に思っているのではないのでしょうか。

おとし2012年からは、在日韓国/朝鮮の方々への信じられないようなひどい発言を大声で言うヘイト・スピーチが始まり、それが発展してたくさん的人数でさけびながら歩くヘイト・デモになり、相手も在日韓国/朝鮮の方々だけじゃなく、住んでいる外国人全体に広がりました。この前、Facebookでも、オランダや中国の同窓生で日本に住んでいる人が差別をうけたと書いていました。

安部首相の「集団的自衛権」の主張も世界で注目されています。これは、「自衛だけ」していた日本が「強いつながりがある国が攻撃されたら、その国を守るために、攻撃した国と戦う」というものです。こういう動きだけを海外で見ていると、とても不安になるでしょうね。

でも心配しないでください。ヘイト・デモへの対抗活動がさかんになり、今は確実に数が減っています。差別をする人は世界中にいますが、サッカーのJリーグで差別へのペナルティーとして無観客試合が行われるなど、差別へのペナルティーはしっかりあります。集団的自衛権も、「特殊な国、日本」が変わろうとしている一つの変化と言えます。ニュースにふりまわされないで、よく日本を知っている人に話を聞いたり、実際の日本を見に来てください。その時は松本にも寄ってね。最近、ドイツ、中国、オランダ、韓国の人々が寄ってくれてうれしかったです。

そして、日本に住んでいる同窓生の皆さん。皆さんはこれからの日本を元気で活気のある国にしていくキーパーソン Key Personです。皆さんが日本人と影響を与えあいながら、多様性 Diversityという日本にないものをもたらしingてくれれば、日本はまた元気になります。差別はこれからもあるかもしれませんが、負けないうでください。

Tel: 0263-37-3360 / Fax: 0263-37-2181
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

◆連絡先 : iad@shinshu-u.ac.jp
*各種お問い合わせ
*配信停止希望
*メールアドレスの変更のご連絡
*情報掲載のご希望
*ご意見、ご感想

など
